

書塾の仲間たち

第246回

えいわ 永和書道会（香川県高松市）



●書塾からひとこと●

「永和書道会」という書塾名は書聖・王羲之の『蘭亭序』の書き出し「永和九年……」にあやかったもので、古典臨書を中心に日々練習をしています。生徒さんは幼稚から大人まで幅広く、生涯を通して楽しく書くことの基本をはじめ、展覧会活動まで指導しています。会の特徴として、児童生徒さんへの指導での書塾での書道用具の管理・貸し出しがあります。生徒自身が持参したものはもちろん、教室でも用具を準備しているので、手ぶらでお稽古に来ることができます。私の考えとしては、「上達は道具に有り」というものがあります。最近は安価であるからと百円ショップなどで筆や半紙を購入する生徒さんもいますが、書道専門店で販売しているものと比較すると違いは一目瞭然です。それならばと、書道専門店で購入した書道用具を一回百円で使い放題としました。使用した全員の筆は私が丁寧に洗って管理しています。

また中学生になった際に部活動や学習塾等で多忙という理由で辞めてしまう生徒さんが大勢いました。そこで中学生・高校生は月謝を無料としたうえ、テスト期間はお休みしてもらい、可能な時に練習できる環境を整えました。以前よりも中学生になつても辞めずに行書の筆法を学ぶ生徒が増え、指導側としても楷書と行書を指導できて満足しています。また、一般の生徒さんは年に一度開催する「永和書道会」に出品し、自分の家に飾れるような作品作りも取り組んでいます。月刊「書字書道」誌のお手本は文部科学省の学習指導要領に準拠していますので安心して教材として使わせていただいております。

世の中はすっかりデジタル主流の時代になりました。書道はアナログの世界ではあります、アナログだからこそ表せる個性や人間味を我々日本人の古き良き伝統として継承してまいります。

※書塾に連絡したい方は事務局へお問い合わせください。

永和書道会 奥谷 龍仙

元々書道の先生だったおじいさんに「書道教室で学んでみないか」とすすめられて、わたしは三年前に姉と弟と三人で書道教室に入会し、書道を始めました。初めて教室に行った時は、水書での体験だったので簡単に書くことができましたが、実際に墨を使って書くと手が真っ黒に汚れて大変でした。ですが、だんだん練習していくと毛筆も硬筆も級が上がるようになつていき、うれしかったです。

わたしの通う書道教室では、「先哲語録」という昔の偉い人の言葉を読み、その意味を答える時間があります。「論語」「礼記」「呻吟語」など、最初のころは語録を読むのも、書いてある意味も難しく思いましたが、一年、二年と続けるうちに暗記したことが増えていきました。今ではすぐに手を挙げて答えられるのが私の自慢です。

そのほかに先生は、毛筆のはねやはらいなどをほめてくれます。毛筆や硬筆の字が上手く書けると達成感でうれしい気持ちになります。

おかげで、書道の級を友達に抜かされた時は、とても「くやしい」と思います。だから、級を上げられるように毎回たくさん練習しています。これからも、もっともっと練習して、もっともっと級を伸ばして、長く書道を続けていこうと思います。



書道も「先哲語録」も一番を目指します

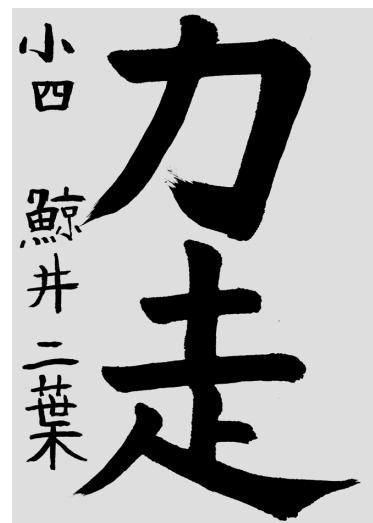
埼玉県越谷市立川柳小学校三年 宇佐美 阳奈子



私と書写書道 第246回

ひそかに心がけていること

東京都三鷹市立高山小学校四年 鯨井 二葉



お母さんから体験に行くことをすすめられて、私は小学二年生から書道教室に通い始めました。体験に行ったときに、先生がやさしく丁寧に教えてください、私は毛筆の楽しさに感動しました。それから書道教室に通うことを決め、書道を始めました。

習い始めたころは、筆を真っすぐ持つことをわすれてしまふなど苦戦しました。先生が筆の持ち方から細かく教えてくれたので、少しずつポイントを意識して書けるようになりました。友達からも、「字がとてもきれいですね」と言われることがふえてきてうれしかったです。

墨をすつて書いた時、ふだんは墨汁を使って練習するので、とても新鮮で楽しかったです。また、おかげでがんばると昇級したり、賞をもらえるので毎回昇級をめざしてがんばっています。昇級できたときは、やはりうれしく、これからもさらにがんばろうと思います。

私の好きな漢字は、「輝」です。理由は、文字から「輝き」を感じられるからです。いつか、その輝きを毛筆で表現できるように、これからもおけいこをがんばります。

私がひそかに心がけていることは、「書道家」になった気分でおけいこに向かうことです。そうすると、集中して取り組めるような気がします。そんなふうに、楽しく通うことができる書道が私は大好きです。

